

シーン9

ジュエル・スターズ壊滅記念パーティー 前編 レッド視点

「んー、それじゃあこれでおしまいにしましょうか」

「解放でもしてくれるのか？」

「はい、ホワイトさんとの約束ですし」

「……なっ。だが、好都合だ……私は、一人になってもあきらめない」

「ふふふ、さすがはジュエル・スターズのリーダーですね」

何を考えているかわからないが油断はできない。が、この快樂地獄が終わるかと思うとすこし……

「あれ、信用してない？ それじゃあ、最後の勝負はレッドさんが自分の足で、この建物の出口から出れば勝ちってことで、いいですよ」

「あ、別に異とかないですよ？ 部屋を出てすぐのエレベータを登ったら1階のロビーですから」

フオビュラスはあっさり、部屋の扉を開けて手招きをする。

「えー、せっかくおチンポ様にご奉仕できると思ってたのに」

「大丈夫、ホワイトはこれから、歓迎会。みんなもおちんちんギンギンにして待ってるから期待しておいて」

「そうなんですか、いっぱいご奉仕頑張ります！」

「みんな……だど？」

衣装まで変わってしまったホワイトはブルーに対して胸を押し付けるように体を預けて、1時間前では考えられなかったほどに淫倣な笑顔で笑っている。

「えー、レッドさんはもう関係ないからいいじゃないですか。あ、出口に向かわずに今からメス奴隷にしてくださいってお願いするなら、完全に洗脳した後に紹介しますよ？」

「……そんなことはできない……」

「あ、ちよつと考えちゃいました。いっぱい気持ちよくなれちゃってお勧めですよ？ ほら、ホワイトさんとかすっごく楽しそうでしょ？」

一瞬、何かが思い浮かんだが、私はまだあきらめるわけにはいかない。まだ、ここを出て……

「な、なんだ……ここは」

エレベーターは何の問題もなくすぐそばにあった。特殊な仕様などないエレベーターだ、地下の内装もどこでもある内装だった。そう、たぶん偶然だ、ジュエル・スターズ本部と同じ内装なんてどこにもある、はず……

「え、普通にエレベーターのなかだよね？」

地下3階から1階まで数秒で到着してしまう。

「1階についたようですね。早く行きましょう！」

開いたエレベーターの扉から見えた光景は当たってほしくない予想通りで。

「あ、ノノちゃん。早かったわね」

「え」

どう見てもジュエル・スターズ本部の正面ロビーで今朝ミーティングにいたスタッフの一人が普通に話しかけてきた。それだけならいつもの風景だが、私の衣装が凌辱された後のほぼ裸に近い状態で、他の3人が怪人の正体を隠してもいない状況ではあまりにも異常だ。

「あー、まだちょっと終わってないんですよ。藤村さんの方は？」

「あれ、そうなの？ 会場のほうは皆集まって……」

スタッフは当たり前のように会話を進めていく。うそだつ、と叫びたくなるがあまりのことでその力もわからない。

「あ、姉さん！」

スタッフと同じように今朝私を送り出したときと同じ笑顔で私の弟、ジュエル・スターズ司令官が……ああ、そんな……

「まさか、ここは……そんな。ジュエル・スターズ本部……だとも」

「違いますよー、ここはオプト・ムーンの新拠点。ジュエル・スターズ本部だったのはちょっと前の話ですね」

「あれ、姉さんの洗脳はまだなんですか？ 僕もう我慢できなくて……」

「聡……そんな、フオビュラス、貴様まさか！」

「ふふふ、当たり前じゃないですか？ 私、洗脳怪人ですよ。3日前にジュエル・スターズ本部全員の洗脳は終わってて、ふふふ、朝のレッドさん達を見ると笑いをこらえるの大変だったんですよ？」

「すみません、姉さん。でも、ボク今すごく楽しいんです。怪人になってみんなを襲って洗脳するの。今まで、ジュエル・スターズスタッフとしてがんばってきた人たちを犯すの凄く興奮して……ああ、そうだ、今なら姉さんを……あはは、もし姉さんが洗脳されないならボクがもらっていいですよ。怪人らしく襲って犯して、ああ、とっても楽しみなあ」やめてくれ、私の弟の顔でいつもの声で、敵……として戦わないといけないなんて!?

「ぐっ、そんな、ん……あ、何!?　なんで……ん、あ、んんん!!?」

【ジュエル・レッド(赤壁あかね)は精神的に傷つくことで快楽を覚える】

心が、あまりの絶望に心が折れそうなのは何だ、この感情は……

「軽くイっちゃいました?　ふふふ、さっきの勝負の時の洗脳で『精神的マゾ』が描きこまれちゃってるからかな?　絶望するほど気持ちよくなっちゃうんですよ」

ブラック・フォビュラスとその場にいる私以外のみんなが楽しそうに笑う。

「つく、それでも、うあ、まけ、ない。心さえ折れなければ……」

【ジュエル・レッド(赤壁あかね)は一定の間隔で正義の味方の心を思い出す】

たとえ一人になっても……わたしは……

「あ、そうそう、その首輪外すんですした。でも、その催眠装置の機能って、いった回数をカウントするのど”どんな調教や洗脳でも悪の組織には屈しない”っていう催眠を外付けでかけてただけなんだけど、なんで外したかったんだろ?」

え、なんだそれは……いや、そんな、まさか……

「あれ、言ってませんでしたか?」

あ、あ、ああ……今外したら……

「まあいいじゃないですか、はい、外しましたよ?」

「あ」

脳みそからつま先まで電流が走ったように全身が段違いに敏感になる。そ、装置なんてな、あ、だめ、あれ……あ……

「それで、正義の味方のレッドさんはどうします?」

シーン10

ジュエル・スターズ壊滅記念パーティー 後編 レッド視点

「はい、みんな今日は集まってくれてありがとー！」

ここはジュエル・スターズ本部の多目的ホールか？ 檀上に立たされているようだが：…う、直前までの記憶が思い出せない。しかも、催眠をかけられているのか、体の自由は効かず、声も出せない。

「それじゃあ、ご主人様の挨拶は終わったんで、次は私達、元ジュエル・スターズが改めて自己紹介するね」

思考がうまくまとまらない、ホール内にはジュエル・スターズのスタッフ……3割ぐらいは直立した動物や異色の肌と、怪人の姿になっているのにその周囲は自然に接している。つく、ジュエル・スターズを制圧したというのは本当だったのか……

「まずは、私。本名、御船ノノ。2か月ぐらい前まではジュエル・ピンクだったけど、オプト・ムーンに洗脳されて今では立派な洗脳怪人ブラック・フォビュラスやってます！ あはは、半分ぐらいは知ってますよね。私の洗脳ザーメンで洗脳しちゃった人達だから」

ブラック・フォビュラスの姿になったノノを話題に、周囲は洗脳されたとは思えないほど穏やかな雰囲気で談笑している。それが、逆に不気味だ。

「でも、まあ、ジュエル・スターズって私が裏切ってるって知らずに放置して、裏でじわじわと洗脳仲間増やしても気づかない、おまぬけな人たちだったから仕方ないかな？」

つく、実際に近くに居ながら気づけなかった私の落ち度だ……

「次は、ボクの番だね。人間だったころの名前は八島レン。元ジュエル・ブルーだったけど、今は改造怪人のカオス・フェンリルだよ！ あはは、ボクもノノに洗脳されちゃった口だけど、みんなも洗脳改造されてとても喜んでるから問題ないよね」

ブラック・フォビュラスの隣に立っていたブルーが変身、いつもの部分変身ではなく全身を黒い獣のように変化さて、カオス・フェンリルに変わる。

「ボクも、いっぱいスタッフのみんなを襲って、ボクと同じどうぶつにしちゃって仲間を増やせたからとっても嬉しいよ。これからは街の人も襲えるから皆も一緒にいっぱい仲間を増やそうね」

心の奥底から嬉しそうに笑う元ブルー、カオス・フェンリに会場の怪人達も合わせて笑う。発情した獣のような目付き、下衆な考えを隠そうともしない下品な目付き、悪の組織から世界を守るという決意に満ちた表情を持ったスタッフは一人もおらず、もう、ここはオプト・ムーンの構成員で埋め尽くされているということを嫌にも思い知らされて……達してしまいそうならいの快感が、つく、なんで……私は何をされた？

「この姿では初めましてですね。元ジュエル・スターズのジュエル・ホワイトとして活動してましたがこの度、おちんちん様へのご奉仕のすばらしさに気づかせていただきまして、皆様専用のオナホ係として生まれ変わりました栗栖川マリアです。新しいコードネームはラスト・ラフレシア。よろしく願いますね」

さっきから、体が、んくう？！？ おかしい、皆の視線でだんだん体温が上がって……ん、ふう、気分はむしろいい方だが、どうなっているんだ……

「ふふふ、前に信仰していた”神”ですか？ もういいんです、あんな処女房。あいまいなことしか言えないのにこんな気持ちいいこと隠してたなんて、ひどいですよね？ これからは、皆さんのおちんちん様の処理を24時間いつでもさせていただきます。体中どこもおちんちん様にご奉仕できるよう改造していただいたので、オナホでも精液便所でもいい使ってくださいね」

スタッフの集団の中に弟を見つけた。ああ、さっきと同じようにまるで獲物を見るような目つきで私を見ている。今まで見たこともない下品な目つきだ。くう、んん？！？ とても最悪な気分なはずなのに……どうして、どんどん体が熱くなっている。

【ジュエル・レッド(赤壁あかね)は○がつながっている方が性的に好みになる】

「さて、最後に紹介するのはこちら、ミルク・バニーさん。怪人というよりは特製ミルク・サーバー担当なので、喉が渴いた際にはご利用よろしく願いますね」

「つく、何を言って……わたしは、ジュエル・スターズのジュエル・レッドだ」
声は出せるようになったが相変わらず体は直立のまま動かせない……だが、意思が残っている限り悪には屈しない。絶対にみんなを催眠洗脳から解いて救って見せる。

「元ジュエル・スターズのレッドさんで、す、よ。ジュエル・スターズ創設者の一人で最強の正義の味方、ファンだった方も多いはずですね。いつもの前身タイツな痴女ルックも良いですが、バニースーツもよく似合ってますね。さすがドスケベボディの持ち主」
怒りよりも羞恥心で顔が真っ赤になる。つく、意識をしつかり持たないとこんな催眠に負けるわけにはいかないんだ。

「それで、ミルクサーバーの使い方でしたね。まあ、使用方法は簡単。おチンポをおまんこに突っ込むだけ」

「私は、ま……」

唐突に、背後から私の膣内に凶悪な太さの男性器……んあゝ!?

【ジュエル・レッド(赤壁あかね)は男性器またはそれに準ずるものを体内に入れられると性的興奮を得ることしか考えられなくなる】

「んひいゝ!? あ、あ、あああゝ!? おちんちんはだめえ!？」

あれ、私は何を考えて、あひいゝ 一突きごとに、あ、ふあゝ 私は、んんん!? あゝだめ、思い出しちゃ……

「何ですか? ミルク・バニーさん。もう一度、自己紹介をどうぞ」

あ、ああ、そうだった……あのとき、ロビーで装置を外された私は考えるまでもなく、その場でブラック・フォビュラス達に土下座してメス奴隷にしまったんだ……ははは、なんてまぬけな話だ……でも、もうあんな風にひたすら我慢して耐えておもしろくないなんて無理。

「は、はい! あ、わたし、ミルク・バニーは、あゝ 元ジュエル・スターズ、んひいゝのリーダーで、ま、まだ、正義の味方のお、心を持って、い、いますが、おちんちんを、わ、私の?!? くそ雑魚おまんこに挿入されると、ひと突きでえ、はあゝ、ふああゝ メス堕ちしちゃう、けど、んひいうゝ 負けない、あゝ ごめんなさい!? おチンポでずんずん突かれるの、Qスポットごしごしされたりゝ 子宮の入り口こつこつされたりするのだしゆきなゝ ド変態な正義の味方でしゅみませんんんん!?」

どうせ、みんな、ジュエル・スターズの本部のスタッフも、ホワイト達メンバーも弟まで洗脳されて改造されて、悪の組織に寝返っちゃったんだし、私一人頑張っても意味無いし、おちんちんゝ 入れてもらったからもう負けちゃっていいんだ。いっぱいゝ いっぱいイチヤッてもいいんだゝゝゝ

「あはは、もう、何しゃべってるかわからないですよ変態正義の味方さん?」

「ひゃん!? だめ、おちんちん入っていると、おちんちんのことしか、あゝ、ああゝ、考えられなくて……」

「しょうがないなあ、だらしないう乳クサーバーさんの代わりに使い方の説明しちやいまずね」

「くそ雑魚正義の味方兼オプト・ムーン用ミルクサーバーのミルク・バニーは約半日おちんちんを突っ込まなければ正義の味方の人格が強くなるようになります。なので、見かけたらみさんの怪人ちゃんぽを突っ込んであげてサクッと退治してあげてください」

「ひゃ、ひゃい。おちんちんありがとうございます！ 怪人ちゃんぽ大好きな変態正義の味方をいっぱいこらしめてくださいっ！」

ブラック・フォビュラスが中出ししたと同時に乳首から母乳を吹き出す。バニースーツが汚れるけど気にしない、これからは一生ミルクサーバーなんだから……

「こんな感じで、いじめてあげると喜ぶどうしようもないマゾうさぎなのでいっぱい蔑んであげると質のいいミルクを出すのでお勧めですよ？」

ああ、みんなが私を指さして笑ってる。恥ずかしくてみじめでうれしくて気持ちよくてこんな快樂があったなんて……見られるたびにゾクゾクしてイクのが止まらない！

「あ、ミルクのお代はこゆーいザーメンを与えてあげてくださいね。中出しでもお口に直接でも、お弁当にパンパンに詰まったコンドームを挟んであげても喜びますから。」

「ひゃい、お、オプト・ムーンの皆さん、こんなならしないミルクサーバーですがご利用よろしく願います……」

乳首から母乳をビュービューって吹き出しながらそう宣言して達するのはとても幸せで気持ちよかった。

「それじゃあ、ジュエル・スターズ壊滅記念パーティみんな楽しんでいてね！」

「姉さん！」

はきはきとした声、ギラギラとした目線、ああ、ズボンをあんなに膨らまさせて、

「はあ、はあっ、はあっ……」

実の○なのに、○がつながった姉○なのに、守りたかった一番大切な、大切な……正義の味方として、実の姉として、○のつながった弟と交わるなんて許されるはずがないことと、というのはまだ私の心の中にある。あるが、そんなことよりも、あのおちんちんで私の膣をついてもらって○の精液を溢れるまで出してもらうことを考えると、ああ、凄くゾクゾクしてそれ以外どうでもいいか……

「あ、司令官君。ごめんごめん、だいぶ待たせちゃったけど、どうぞ思う存分楽しんで」

「もう、ほんとに待たされたんですよ。今日も、姉さんに合わない時は適当なスタッフさんで又いていたのにこんなにパンパンになった大変だったんですから」

「ズボンからはみ出しそうになっちゃって、あは、オナニー覚えて男子じゃないんだからって、年齢的にはあまり変わらないのかな？ レッドさんも何か言ってあげてくださいよ」

目の前の怪人に恥も外聞も○のつながった姉としての尊厳もなく、オチンチン大好きなメス奴隷ミルクサーバーとして口を開く。

「ご使用ありがとうございます。その素敵な怪人ちゃんぽでドスケベミルクサーバーにいっぱい精液注いでいっぱい楽しんでください」

だって、今は精液でミルク出すオプト・ムーンの備品だから、問題ない。もう我慢しなくてもいいんだから……

「楽しんでます？ レッドさん、あ、今はミルク・バニーさんでしたね」

「あは、あははは、おちんちん、いっぱいずぼずぼしてもらってとっても楽しいです！」
弟のおちんちに抜かずに4回ほど濃ゆい精液を出してもらったあと、どこかで見た顔の怪人に声をかけられた。ああ、今朝パーティーの準備がとってたスタッフの面影がある。
「よかった、みんなで頑張ってパーティーの準備したんですよ」

「あ、パーティーって、ん、んん！？ あひい、……このこと、ん、あ、あああ！？」

あはは、今思うとあの時ホワイト以外全員心の中で私達のことを笑っていたのか……そう思うだけでゾクゾクとした暗い快樂が全身を駆け巡ってイってしまふ。

「そうですよ、うんうん、楽しんでるみたいで嬉しいです」

そういつて、スタッフは私の胸を思いつきつねる。

「んひいひい……！」

ミルク、私のだらしないおっぱいからいっぱいドスケベミルク出ちゃう。弟の精液から作ったドロッドロのミルクいっぱい出すの気持ちいい。

「ずいぶん、メス臭いミルクね。それに、ドロツとして……ひいうん、ふあ、ひとくちのんだだけでイっちゃいそう。これ、普通の人が飲んだら一発でメス奴隷に洗脳されちゃうんじゃ。さすが、元ジュエル・スターズ製のミルクサーバーですね……いっぱいのんだら胸大きくならないかな？」

「えー、さすがにここまでだらしないおっぱいはいいかな？ でも、ミルクの方はとってもエッチな味で私は好き。そうだ、私は1リットルくらいもらって妹二人に飲ませて家で楽しむ用のミルクサーバー作っちゃおう」

「あ、それいいね。私も、弟に飲ませてみよう。だめだったら、お隣の娘さんでいいかな？」

ああ、この洗脳ミルク、これから何も知らない一般人にごくごく飲まれてみんなドスケベミルクサーバーに変えちゃうの、想像するだけでイっちゃいそう。

「ああ、姉さんの雌穴、すっごい気持ちいい！ 何回出しても飽きないです！ あはは、姉さんの下のお口もじゅぽじゅぽ、ぐちゅぐちゅってとってもおいしそうな音立ててボクのおちんちん味わってます！！ 帰ってから家でもどこでもボクのおちんちんで喘がせてあげますね！」

「ひゃいっ！ が、がんばりますうっ！！ わたし、ミルクサーバーとして、怪人の皆様にドスケベミルクいっぱい出して、ふうんっ！？ あ、ああっ、いっぱい飲んでもらって、よ、夜は、聡の、お、おちんぽ、ケースうとしてっ、務めさせていただいてえっ、ひゃんっ！？ あひいっ！？？ ダメダメ正義の味方兼ミルクサーバーだけど、いっぱいかわいがってくださいっ！！」

「こんななんになってもまだ正義の味方続けるって、もう、みんなのおもちや専用でいいんじゃないです？」

「んひいっ！？ あ、ああ、だって、んん、せいぎのみか、た、だったら、怪人様のおっ！？ みんなにおちんちんで……ああ、ひうっ、いっぱい、やつつけても、らえるか、らあ……」

「つぶ、姉さんとっても情けなくて、かわいいですよ。じゃあ、お望み通り、怪人に改造された実の弟のおちんちんで懲らしめてあげますからね」

「んあっ！？ んほお！！？ 怪人ちんぽ、勝てないっ！？ しゅっいのっ！？？」

「あ、じゃあ、私は前から、ドスケベ正義の味方にふたなり怪人ちんぽで攻撃してあげます。ミルク・バーンさん、いえレッドさんも物欲しそうに見てましたしね」

「んぶう！？ ん、んん、れろ、んちゅ……」

「あはは、ミルクいっぱい絞ってあげますね。それ、ビュービューっでこゆーい洗脳ミルク出しましょう。あとで、何も知らない妹たちに飲ませた時の反応が楽しみ」

こうして、この日ジュエル・スターズは完全に壊滅した。



シーン11

ジュエル・スターズ最終報告書3

最終調整も完了し、本日をもってジュエル・スターズはオプト・ムーンの傀儡組織として活動予定である。

活動内容としては元ジュエル・スターズの4人の上級怪人（一部は洗脳素材製造装置として使用予定）を軸にメディア、治安保持組織、行政組織などの国の上流を掌握、また、同時に民間でランダムに抽出した人間を洗脳してオプト・ムーンの潜在的構成員に作り替える活動を行う。

ジュエル・スターズはこれらの活動の隠蔽、場の確保などの補助に活用する予定である。民間への浸透は活動拠点の街、関東、日本全域と進める予定。詳細は添付した計画書を参照のこと。

また、自然発生する正義の味方候補の対処も元ジュエル・スターズ本部を用いて本覚醒する前に洗脳、処理を行いオプト・ムーンの上級怪人に改造できるように作業フローを作成中である。